

2018年3月4日（日）メッセージアウトライン 「天の御国のかぎ」

聖書箇所：マタイ16：13～19

タイトル：「天の御国のかぎ」

テーマ：イエスを「あなたは生ける神の御子キリストです」と告白したペテロに、イエスは天の御国のかぎを託された。弟子になりたての頃のペテロ、天の御国のかぎを託されたその後、さらにはペンテコステの日、聖霊を受けた後の彼の使徒としての働きを見ながら、天の御国のかぎを託された使命をペテロがどのように全うしていったのか。そもそも、天の御国のかぎを託されるということは何を意味していたのか。今の私たちにとってどういう意味があるのかを考えていきたいと思います。

1. 天の御国のかぎを託される前のペテロ

- ①ガリラヤ湖畔の漁師（マタイ4：18）
- ②イエスの弟子としての招きに従ったペテロ（4：19）
- ③しゅうとめの熱病をイエス様にいやしていただいた（8：14、15）
- ④12弟子の一人として、宣教のために遣わされた（10：1～7）
- ⑤水の上を歩いてイエスのもとに行こうとして失敗（14：28～31）など

2. 天の御国のかぎを託された後のペテロ

- ①イエスの十字架預言を否定し、イエスから「下がれ。サタン」と言われた（16：21～23）
- ②山の上でイエスの御姿が栄光の姿に変わった場面を目撃（17：1～6）
- ③イエスが語られた十字架預言と弟子たちの躓き預言に対して、自分だけは大丈夫と主張（26：33）
- ④ゲッセマネの園で祈るイエスの近くで眠りこけていたペテロ（26：38～46）
- ⑤捕えられたイエスの後についていき、イエスの仲間だという指摘を受けると、3度否定した。イエスの言葉を思い出し、泣いて悔い改めた（27：58～75）

3. ペテロに与えられた権威とは？

- ①「天の御国のかぎを開く」権威
- ②「つなぐ、解く」権威

4. 福音が伝えられるべき順番

イエスはご自身が天に帰られる前に弟子たちに言われた。「聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります」

- ①エルサレム（神の都）とユダヤ
- ②サマリヤ（ユダヤとサマリヤは大きなくくりではイスラエルの民）
- ③地の果て（異邦人）

5. ペテロが天の御国のかぎを開いていった順番

- ①ペンテコステの日、聖霊がイエスの弟子たちの上に下った。（使徒2章）
 - *ペンテコステ（五旬節）は巡礼祭なので、世界各地から多くのユダヤ人がエルサレムにやって来ていた。
 - *聖霊を受けたペテロは、ユダヤ人たちにイエスの十字架と復活、そして聖霊が注がれている事実を証した。
 - *この日、ペテロの言葉を受け入れた者はバプテスマを受け、三千人ほどが弟子に加えられた（エルサレム教会の誕生）ユダヤ人のために天の御国のかぎが開かれた。
- ②ピリポによるサマリヤ伝道（使徒8：5～17）
 - *サマリヤの人々がピリポの伝道によってイエス・キリストを信じ受け入れたという報告がエルサレムに届く。使徒たちはペテロとヨハネをサマリヤに派遣
 - *ペテロとヨハネにより、サマリヤの人々に聖霊のバプテスマが与えられた。サマリヤでの天の御国のかぎが開かれた。
- ③カイザリヤでのコルネリオとその一家の回心（異邦人伝道の初穂）
 - *場所：カイザリヤ
 - *コルネリオは御使いを通して、神の語りかけを聞いた。ヨッパに滞在しているペテロを招こうとする。
 - *ペテロはヨッパで不思議な幻を見て、思い巡らしているところに、コルネリオの使者がやって来た。カイザリヤへ。コルネリオにイエス・キリストをあかしした。
 - *ペテロの言葉に耳を傾けていたコルネリオはじめその場の一同の上に聖霊が下った。
 - *彼らはイエス・キリストの名によってバプテスマを受けた。ついに異邦人に対しても天の御国のかぎが開かれた。
- ④教会はどこに建て上げられるのか

5. 結論と適用

- ①聖霊に満たされ導かれる以外、天の御国のかぎは開かない
 - *福音伝道 *信じる者が起こされる *教会が建て上げられる
- ②天の御国のかぎを託されたペテロのしたこと
 - *聖霊が与えられた後、イエスが告げられた通りの順番で、福音を伝え、信じた者に聖霊のバプテスマが与えられるよう祈り、地域の教会の働きをスタートさせた。
 - *聖霊に満たされ導かれているペテロ
- ③ペテロが開いた天の御国のかぎは、今も開かれている。そして、閉じられる日が来る。